

療に関する大学の 87 の図書館が含まれる。この図書館システムの利用者は 1994 年 4 月の時点で約 60,000 人、健康・医療に関するあらゆる資格を持つ人が含まれている (Loc. et al., 1994)。

— 農学中央図書館 (Central Library of Agricultural Science) は、農学に関わる学会、研究所、農業センター、農業大学にある図書館で構成される農業図書館システムを管轄する。農業省 (Ministry of Agriculture) が財政面で支援している。

— 中央軍事図書館 (Central Military Library) は、軍事図書館システムを監督している。このシステムは、部隊、中隊、一般政治機関、軍事省 (Ministry of Military Affairs) といったすべての軍事機関の図書館を含む。1994 年の時点で、中央軍事図書館は 3,000 万冊の図書と 1,500 タイトルの雑誌を所蔵し、約 1 万人の利用者がいる (Trong, 1994)。

Hùng (1994), Du (1995a) によると、これらの図書館システムで働くスタッフの合計は 1995 年の時点で 23,092 名を数えた。

#### 4. 課題

現代ベトナムの図書館の発展には、2 つの基礎的な要因が影響している。ひとつは、国家経済が中央集権型から市場経済に変わり、新しい情報の需要が創り出されたことである。もうひとつは、共産主義国家の崩壊に伴いベトナムの図書館へのロシア語コレクションの流入が止まったことであった。

今日、ベトナムの図書館利用者は貿易、銀行業、特許、ハイテクに関する最新の情報に関心を持っているが、図書館はこのような情報を提供できていない。1985 年以前の図書館は社会主義思想、マルクス・レーニンイデオロギー、そして農業生産を支援することを目的に作られていた。最近では、蔵書構築は社会、技術に関する、特に英語やフランス語で書かれた図書に焦点を当て始めている。

#### 5. 結論

この 10 年、ベトナムの図書館は多くの困難に直面した。この困難には、財政面の財源の制約と情報技術のスキルの不足も含まれる。大部分の図書館は古いコレクションと貧弱な施設を持った時代遅れのものである。しかし今、政府は学力不足を補うプログラムを導入しようとしており、国の意欲的な開発プログラム (country's ambitious development programme) においても、図書館を重要な施設と位置づけている。図書館・情報サービスへの投資と普及促進は社会、経済・技術開発、科学研究、教育・訓練の現場からの要求に対応して今始まったところである。

Vinh (2005) によると、将来のベトナム図書館システムの発展に当たっては、早急にこの新しい千年紀に対応できるよう近代化、標準化に重点を置くべきであるという。国の経済発展に貢献するために、ベトナム

の図書館は、効果的な検索や相互貸借のためコレクションを組織できる適切なツールを持つべきである。そのためにも、図書館の標準化が必須である。

グエン ホア ビン  
(大阪市立大学大学院: Nguyen Hoa Binh)

Ref: Anh, T.L. Recent library developments in Vietnam. Asian Libraries. Vol.8, issue.1, 1999, 5-16.

Vinh, T.L. Library development in Vietnam: Urgent needs for Standardization. (online), available from <<http://www.leaf-vn.org/libdev.html>>, (accessed 2006-11-10).

Du, D.H. He thong thong tin va thu vien Vietnam (Library and Information System in Vietnam). Vu Thu Vien, 1995 (unpublished).

Du, D.H. He hoach phat trien 5 nam thu vien cong cong (1996-2000). Vu Thu Vien, 1995 (unpublished)

Dung, T.A. Quan ly nha nuoc doi voi nganh thu vien. Tap san thu vien. 1, 1995, 3-12.

Hùng, N.H. Dao tao va boi duong can bo trong mang luoi thong tin tu lieu KHCN Quoc gia, Tap chi thong tin & tu lieu. 1, 1994, 4-8.

Hung, T.B. Information infrastructures in Vietnam. Study on the information infrastructures for planning information systems and networks in Asia and Pacific countries, (SISNAP): proceedings of International Workshop, 11-14 October 1994, Tsukuba, Tsukuba, University of Library and Information Science, 1994, 46-59.

Loc, D.T. et al. Nhan dinh ve mang luoi thong tin KHCN Y Duoc qua ket qua mot cuoc dieu tra. Tap chi thong tin & tu lieu, 3, 1994, 5-9.

Mô, N.N. Tim hieu lich su thu vien Vietnam thoi thuoc Phap. Tap san thu vien, 3, 1994, 3-7.

Quang, T.D. Su nghiep thu vien Vietnam: nhung van de chung. Truong Dai hoc Van Hoa, Hanoi, 1985 (unpublished).

Son, V.V. Thu vien Khoa hoc va Ky thuat Trung uong 35 tuoi (6/2/1960-6/2/1995). Tap chi thong tin & tu lieu 4, 1994, 20-22.

Trong, M.V. Thu vien quan doi trong nhung nam doi moi. Tap san thu vien, 4, 1994, 5-8.

Van, F. Thu vien hoc dai cuong, Dai hoc Tong hop. Vien Thong Tin Khoa Hoc Xa Hoi: 20 nam xay dung va truong thanh. Vien Thong tin KHXH, 1995.

## CA1616

### ナレッジ・ベース社会に向けたタイの図書館の立場

#### 概要

タイの図書館は、運営する機関によって大まかに分類される。この分類ごとに、資源と運営戦略は異なっている。各館種は規模や経営状況に応じ、それぞれ独自の目的、利用者層を有している。図書館向けの新しい技術により、利用者のアクセシビリティや利用効率を高め、ナレッジ・ベース社会をより促進するのである。タイでは、人的資源の開発によって、すべての人が学習機会を得ることができるようになることが求められている。公共図書館は、少なくとも、タイ社会の情報に関する意識と読書の文化を高める「公共の読書室」にはなるかもしれない。

### タイの図書館の組織と主たる活動

タイの図書館は厳密には分類されていないが、運営する機関によって大まかに3種類、すなわち、国立図書館、大学又は調査機関の図書館、そして政府や地方自治体による公共図書館に分類することができる。

1. 国立図書館：タイには17館の国立図書館があり、教育省の芸術部により運営されている。国立図書館は、歴史文書や社会科学、小説、自然科学に関する本といった幅広い知識を提供している。滅多に手に入らない知識インフラにアクセスできることから国民にとっては重要な存在であるが、たった17館しかないため、地方の住民が国立図書館を訪れるのは難しい。
2. 大学又は研究機関の図書館：大部分は大学又は研究所、調査機関、各専門分野の知識企業により運営されている。この種の図書館の主たる目的は、学生や研究者といった構成員に対するサービスである。図書館資料の中心は各機関の調査・研究の成果といった、非公式な教育資源である。だがこのような資料であっても、図書館は収集し何人に対しても公開している。
3. 県政府による公共図書館：各県（編集事務局注：タイには75の県がある）政府は、県内の住民にサービスを提供するため公共図書館を設置している。1939年にウボン・ラーチャターニー（Ubon Ratchathani）県に設置されたのが最初である。各図書館のサービス能力は、県政府の予算と資源に依存する。通常、大規模な県はより大規模なサービスを提供することができ、例えばバンコク首都府（Bangkok Metropolitan Administration）では22の公共図書館、8つの移動図書館のほか、地域向けに設置されている小規模公立図書館であるブック・ホーム（book homes）を23か所に設置している。このほか、郡（district）や行政区（sub-district）のレベルでは県の図書館のネットワークとして機能する小規模な公共図書館がある。現在、県の公共図書館73館、郡の公共図書館686館、分郡の公共図書館50館がある。

タイの図書館の主たる活動は、標準的な図書館と同様、読書や情報検索など、知識社会に向けた様々な活動を推進することである。

地方においては、公共図書館はThaicom（編集部注：Shin Satellite Public社のサービス名）の衛星を通じた遠隔教育テレビ番組の放送センターとして、住民への教育サービスを拡大してきた。Thaicomを含むテレビやラジオ、インターネットといったメディアは公式・非公式な教育の担い手であることを求められているが、その主な射程は農村の住民である。

### 図書館のアクセシビリティ

タイのすべての図書館は、一定の条件のもとに公共に開かれている。例えば、国立図書館は会員のみ利用が認められているが、誰でも会員になることができる。大学図書館はすべての来館者に対してアクセスを認めているが、蔵書の貸出には図書館間相互貸借を利用しなければならない。また、研究所の図書館の中には、一般利用者からは入館料を徴収するところもある。

一般の住民を対象としてサービスを提供している図書館はまだ少ないが、移動式の公共図書館を活用することにより、地域コミュニティにおける利用の可能性を高めることができる。地方だけでなく、複雑な交通事情のある地域でも移動図書館を活用する必要があるとされており、例えばバンコクのある地域では、川が移動に最も便利であることから、毎週ボート図書館が訪れている。

### 図書館の通信技術環境

国立図書館と大学図書館は、サービスの品質を支えるため、近代的な技術を用いた情報システムを使用している。オンライン利用者目録（OPAC）は、すべての図書館で導入されている。大部分のOPACのインターフェイスはウェブベースに置き換わり、利用者はインターネットを通して離れたところからアクセスすることができる。オンラインの電子ジャーナルにもアクセスすることができるが、こちらは館内でのみ利用が認められている。しかしながら、最新の図書館では、Thailand Knowledge Parkのように、オンラインで電子出版物やメディアを検索・閲覧できる電子図書館サービスを提供することにより、情報技術環境への統合をより有益に行っている例もある。

中・小規模の公共図書館では、このような情報技術環境における利用者の学習ニーズにあった効果的なサービスはまだ提供できていないが、「Public Library Service（PLS：教育版）」というソフトウェアが、タイの公共図書館その他図書館に無償で配布されている。このソフトウェアは、資料の書誌情報のデータベース、バーコードや図書館利用カードの印刷システム、バックアップシステムとして利用することができる。

### 図書館の効率性

図書館システムに情報技術を導入することにより、図書館の能力は大きく改善され、館内での利用がより便利になっただけでなく、館外からのアクセス、やりとりも可能となった。しかしながら、タイの図書館は運営する機関によって区分され、資源も予算も様々である。地方においては、住民が学校以外で読書をしたり自己啓発をしたりする機会が不十分である。そのため地方の公共図書館は、「公共の読書室」として活動しているが、図書館システムやサービスの計画・運営を行う専門的理解が不足しているために、図書館の効率性は低く、専門的な助言を得られないのである。

結論

タイでは、資源と予算の制約から教育システムはまだすべての人に奉仕できていない。正規ではない教育システムが、あらゆるレベルの学習者のニーズに対応した柔軟な方法で、学校での教育機会を逸してしまった人のための教育活動を提供できるかもしれない。この場合、図書館を地域に配置することで、知識社会をより促進し、公式な教育システムだけに依存しない知識社会を促進し、さらに持続的な学習社会が達成できるだろう。読書の文化が不足しているタイでは、情報に関する意識と読書活動の推進は、地域に最も身近な資源である公共図書館において改善されるのだろう。

(大阪市立大学大学院：Sarawat Ninsawat)

(タイ王立チュラチョムクラオ防衛大学校：Surat Lertlum)

Ref: Dadphan, K. The Work Status of Library and Information Science Graduates. Bangkok, Thailand, Chulalongkorn University, 1999, Master's Thesis.

Premmit, P. Library and Information Science Education in Thailand. 2004 年度第 2 回 LIPER 国際研究会. 東京, 2004-12. (online), 入手先 <<http://www.soc.nii.ac.jp/jslis/liper/record/thailand-e.pdf>>, (邦訳版) 入手先 <<http://www.soc.nii.ac.jp/jslis/liper/record/thailand-j.pdf>>, (参照 2006-11-13).

Thailand Knowledge Park. Thailand's Lively Library: TK e-learning. (online), available from <<http://www.tkpark.or.th/th/oth/elbry/elbry.htm>>, (accessed 2006-11-13).

CA1617

研究図書館目録の危機と将来像  
— 3 機関の報告書から —

2005 年末から 2006 年にかけて、米国の 3 機関から、研究図書館（学術図書館）における目録・目録業務の将来像に関するまとまった報告書が相次いで公表された。『カリフォルニア大学における書誌サービス提供方法の再検討<sup>①</sup>』（2005 年 12 月）（E448 参照）、『インディアナ大学における目録業務の将来に関する白書<sup>②</sup>』（2006 年 1 月）、そして LC（米国議会図書館）による『目録の変化する本質および他の情報発見ツールとの統合<sup>③</sup>』（2006 年 3 月）である。

これらの背景には、現在の目録の機能や費用対効果に対する危機認識があり、その認識や対処方法をめぐって論争も起こっている。本稿では 3 報告書を中心に、研究図書館目録をめぐる議論の動向を紹介したい。

1. マーカム (Deanna Marcum) の危機認識

2003 年から LC の図書館サービス担当副館長 (Associate Librarian) を務めるマーカムは、2005 年 1 月に「目録業務の将来」と題した講演を行った<sup>④</sup>。

本講演では、「Google 時代」における目録業務への危機認識を、2 つの側面から指摘している。一つは目録利用の低下であり、様々な調査結果が利用者（特に学生）の検索エンジンへのシフトを示しているという。もう一つは Google Book Search (E285 参照) に代表

される大規模デジタル化プロジェクトの進行であり、単語レベルのインデクシングを伴うデジタル化が急速に進展すれば目録業務のあり方も問い直されるとしている。そして、こうした状況のもとでは目録業務の費用対効果 (LC の目録業務の年間コストは 4,400 万ドル) を高める再構築が必要であるとし、抄録・索引ツールやオンラインレファレンスツールとの「ハイブリッドシステム」構築や、一次情報のデジタル化を前提として記述目録タスクを簡素化し余力をより知的な作業（典拠コントロールなど）に振り向けること、などの可能性をあげている。

講演という性格から、明確で詳細な青写真が示されたものではないが、本講演は LC の目録政策に責任を持つ幹部の発言として注目を集め、上記インディアナ大学及び LC の報告書でも議論の出発点の一つとして明示されている。

2. カリフォルニア大学の報告書

カリフォルニア大学の報告書は、5 名の図書館員からなる「書誌サービスタスクフォース (BSTF)」によるものである。本報告書は、「この 10 年でどのオンライン検索もより単純で効果的なものになったが、図書館目録だけが例外である」と述べているように、OPAC の機能改善に問題意識の力点を置いている。「探索・検索の改善」のための勧告事項として、検索失敗時のサポート、大量ヒット時のナビゲーション (FRBR (CA 1480 参照) モデルの導入やファセットブラウジング<sup>⑤</sup> など)、レレバンスランキング (検索結果のランキング表示) の導入といった OPAC 単独での機能改善事項に加え、「利用者のいるところに書誌サービスを届ける」として、学内の教育ポータル等から目録検索を可能にすることや目録データを外部サーチエンジンに提供すること等もあげている。

また、コスト削減のための目録業務見直しも重視されている。目録部門統合など学内事情に係わる事項もあるが、リソースごとに適切なメタデータスキーマと記述レベルを選択する（すべてを MARC/AACR に統一しない）、LCSH (米国議会図書館件名標目表) の全面的使用を見直し OCLC の FAST<sup>⑥</sup> に注目する、メタデータ作成に外部ソースの利用 (コピーカタログング) を徹底する、等があげられている。一方で、重要な分野には作業を集中し豊かなデータを作るとの提言もあり、例として、FRBR モデルを用いたナビゲーション機能が特に有効な、文学・音楽分野の多作な著者の著作などがあげられている。

なお、本報告書末尾には抄録・抜粋を含んだ約 60 点の文献リスト (ほぼ 2003 年以降の文献) があり、有用である。

3. インディアナ大学の報告書

インディアナ大学の報告書も、図書館員 11 名からなる「目録業務の将来に関するタスクグループ」によ